

# かみおおざくら 上大作裏遺跡第2次発掘調査説明会資料

2007年7月24日(火)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

## 調査要項

遺跡名	上大作裏遺跡
遺跡番号	平成17年度登録
所在地	南陽市大字砂塚字大作前ほか
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道113号赤湯バイパス改築事業
調査面積	4,000㎡
現地調査	平成19年5月10日～7月27日
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代、中世
遺構	竪穴住居跡、墓塚、土坑、井戸跡、溝跡
遺物	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、石器、石製品
調査担当者	調査課長 長橋 至 主任調査研究員 須賀井新人(調査主任) 調査研究員 今 正幸
調査協力	置賜教育事務所 南陽市教育委員会

## 調査の概要

上大作裏遺跡は南陽市街地から西方約4.5kmに位置し、縄文、弥生、奈良・平安時代、中世の四時期の集落跡と推測される遺跡です。その範囲は現況の地形等から、河岸段丘上の東西約500m・南北約200mと推察されます。今回の発掘調査は昨年度に続く第2次調査で、昨年秋に行った試掘調査の結果に基づき4,000㎡を対象に、5月10日から実施しました。

調査はバイパス工事用道路の付け替えにかかる北端部を先行して進め、この部分の引き渡しを経て、現在は南半城を調査中です。調査区内における地盤は、北側で高く南西部が低い状況から、遺構や遺物の分布は地形に即して北半城に多く認められます。

これまで得られた資料は整理作業を通じて検討を加え、第1次調査と合わせて平成20年度以降に報告書として刊行される予定です。



## 検出遺構

見つかった遺構には、縄文時代の竪穴住居跡・墓跡・フラスコ形状の土坑、奈良・平安時代の竪穴住居跡や土坑、中世の井戸跡・溝跡などがあります。約500基の遺構は、出土遺物が少ないために時代が明らかなものは一部に限られますが、大方は縄文時代早期末～前期初めに属するものと考えられます。

竪穴住居跡は5棟確認され、このうち2棟(ST42・90)は縄文時代早期末の住居跡であることがわかりました。この時期の住居跡の検出はあまり例がなく、これまで山腹や山麓部に多かった当時代の集落跡が、平野部で見つかったことは注目されます。また、住居跡の近くからは小判型の穴がいくつか見つかかり、このうちの1基(SK51)では14点ものヤジリがまとまって出土したことから、副葬品を納めた墓跡と思われる。土坑には掘り口よりも底部が広がるフラスコ形状となるものも多く見られ、縄文時代に木の実などの食料を蓄えるために使われた貯蔵穴と考えられます。

奈良・平安時代の遺構では、竪穴住居跡1棟(ST52)と数基の土坑、また中世の遺構としては、東西方向に掘られた溝跡(SD10)や、調査区南半城で見つかった何基かの井戸跡などがあります。

## 出土遺物

縄文土器と石器・土製品、弥生土器、奈良・平安時代の土師器や須恵器、中世の陶器が出土しています。

土器類はすべて破片ですが、縄文土器では器の内・外面に縄文を付けたもの(表裏縄文土器)があり、今から約6,500年前の縄文時代早期末に存在した特有な土器です。また、縄の一端にわらびのような環を作って回転させた文様のもの(ループ文土器)が見られ、縄文時代前期初めの製品と考えられます。石器には完成したものと

して、狩りに使用したヤジリや携帯用ナイフとされる石匙などがあります。土製品は土器の破片を打ち欠いて円く形成し、中央に穴をあけた「有孔円板」が出土しています。

弥生土器は昨年度の第1次調査で多数出土しましたが、今回は表土掘削の際に数点見つかった程度で、遺構に伴うものではありません。これらは2本一対の平行沈線を引いた文様に特徴があり、約2,000年前の弥生時代中期後半のものであります。

奈良・平安時代の土器は破片が多く、復元できるものはありませんが、煮炊きや貯蔵用の甕と食器である坏などが認められます。中世の遺物は、主に井戸跡から出土した陶器の鉢や甕片です。

## まとめ

上大作裏遺跡は縄文、弥生、奈良・平安時代、中世の集落跡です。昨年度実施した第1次調査も含め、これまでの成果を要約すると以下ようになります。

第2次調査で発見された遺構は、縄文時代早期末～前期初めを中心とするもので、当時の竪穴住居跡4棟をはじめ、墓跡や食料の貯蔵穴などが見つかりました。この時期の集落跡の調査は県内でも例が少ないため、貴重な資料を得ることができました。昨年の調査で発見された資料も含めると、遺跡内からは縄文時代早期末・前期初め・前期末と、弥生時代中期後半、奈良・平安時代、それに中世において集落が営まれたことがわかり、古来より住みよい土地であったことが窺われます。

今回の調査で出土した遺物は整理箱3箱程と少ない数ですが、住居跡や土坑・溝跡といった主要な遺構内から出土したことにより、これらの年代を決定することができる貴重な資料となりました。



縄文土器

縄文時代の石器

平安時代の土器



ST40・42 竪穴住居跡の検出状況



縄文時代前期初めの竪穴住居跡



平安時代の竪穴住居跡



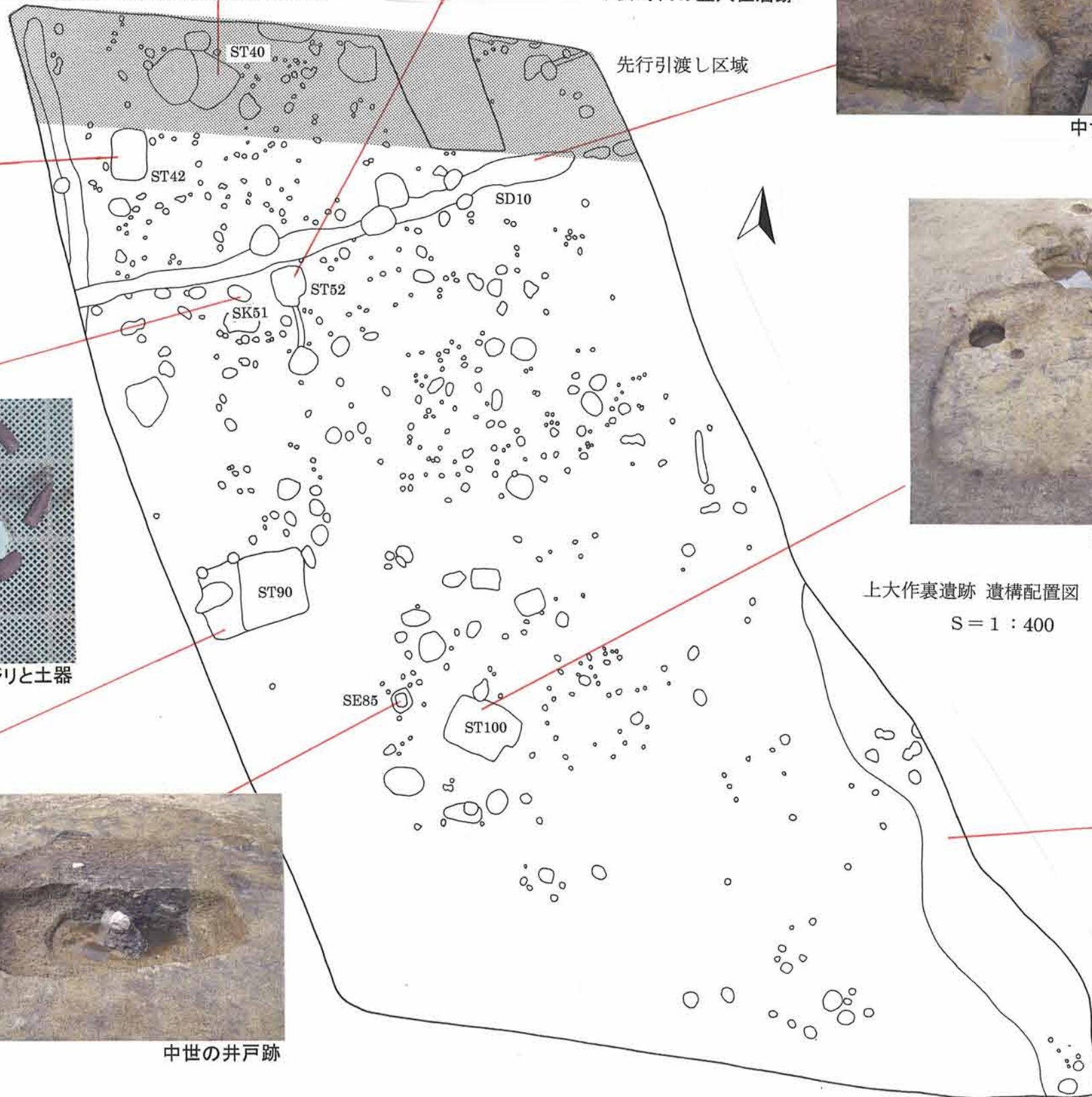
中世の溝跡



SD10 溝跡の調査



縄文時代早期末の竪穴住居跡



縄文時代早期末の墓跡



出土したヤジリと土器



縄文時代前期初めの竪穴住居跡



縄文時代早期末の竪穴住居跡(検出状況)



中世の井戸跡

上大作裏遺跡 遺構配置図  
S = 1 : 400



蛇行する河川跡